

Costume and Textile

No.16

服飾文化学会会報

2008年9月

会長再任にあたって

伊藤 紀之

服飾文化学会は発足以来、石山彰先生、石井とめ子先生により学会の基礎が築かれ発展してきました。2006年4月より、はからずもその後を私が引き継ぐことになり2年が経過しました。



その間、学会活動も活発に行なわれ、会員も若手を中心に増加してきておりますことは、会員各位のご支援、ご協力の賜物と感謝しておりました。2008年度役員の改選のための選挙結果に基づき、新たな会長へバトンタッチするつもりでおりましたが、4月の第1回理事会で、もう一期継続するようにとの意向を受け、微力ながら新たな気持ちで会長をお引き受けすることいたしました。

学会は厳しくも、知的楽しみを共有できる場でありたいという、これまでの考えを継続していくつもりですが、同時に今年度より新たな試みとして作品集を刊行することになりました。幸い、現在の学会員の中に、染織・手芸・デザインなど実践を伴う専門分野に対し、公的な審査機関に関わっておられる方々が揃っています。学会の顔ともいえる学会誌に、作品集が加わることにより、新たな研究活動の範囲が広がっていくと確信しております。

論文集と作品集が服飾文化研究の両輪となって、特色ある発展につながっていくことを期待しています。

役員改選について

2007年12月より選挙管理委員会による役員改選の準備が始まり、本年1月28日消印有効で受理した投票用紙を2月9日に開票。2008、09年度の理事27名と監事2名が選出されました。また、第1回理事会において伊藤紀之氏が会長に再選され、役員の担当は下表のように決まりました。

2008・09年度 服飾文化学会役員

担 当	氏 名	所 属
総務	会 長	伊 藤 紀 之 共立女子大学
	副会長	小笠原 小 枝 日本女子大学
		蔵 方 宏 昌 東邦大学
財 務	長 田 美智子	鎌倉女子大学
	大 網 美代子	大妻女子大学
庶 務	大 網 美代子	大妻女子大学
	飯 塚 弘 子	埼玉女子短期大学
	池 田 節 子	相模女子大学
	田 中 美 智	川村学園女子大学
総 会 ・ 大 会	岩 崎 雅 美	奈良女子大学
	山 名 邦 和	京都女子大学
	玉 田 真 紀	尚絅学院大学
	岡 田 宣 世	女子美術大学
	長 田 美智子	鎌倉女子大学
	池 田 節 子	相模女子大学
	佐久間 恭 子	女子美術大学
夏期セミナー	蔵 方 宏 昌	東邦大学
	伊 藤 一 郎	聖徳大学短期大学部
論文発表会	泉 山 幸 代	北翔大学短期大学部
	能 澤 慧 子	東京家政大学
研 究 例 会	高 部 啓 子	実践女子大学
	徳 井 淑 子	お茶の水女子大学
	塚 田 耕 一	杉野服飾大学
	佐々井 啓	日本女子大学
学 会 誌 編 集	長 崎 巖	共立女子大学
	小笠原 小 枝	日本女子大学
	齊 藤 昌 子	共立女子大学
	佐 藤 泰 子	文化女子大学
	杉 田 洋 子	國學院大學栃木短期大学
	杉 見 美紀子	京都女子大学
作 品 集 編 集	小笠原 小 枝	日本女子大学
	玉 田 真 紀	尚絅学院大学
	常 見 美紀子	京都女子大学
会 報 編 集	岡 田 宣 世	女子美術大学
	泉 山 幸 代	北翔大学短期大学部
	佐久間 恭 子	女子美術大学
	清 水 久美子	同志社女子大学
	多 田 洋 子	和洋女子大学
	柳 原 美紗子	日本絹業振興会
監 事	石 井 とめ子	大妻女子大学名誉教授
	桜 井 映乙子	和洋女子大学名誉教授

2008年度 事業計画

◇総会・大会

日時：2008年5月17日(土)、18日(日)

会場：女子美術大学 相模原校舎

◇夏期セミナー

期間：2008年8月5日(火)～7日(木)

会場：北海道厚生年金会館 ウェルシティ札幌

◇論文発表会

日時：2009年3月第1週の土曜日 開催予定

◇研究例会

年2回 開催予定

◇服飾文化学会会報発行

2008年9月下旬、2009年3月中旬発行予定

◇服飾文化学会誌発行

2008年度は2009年1月末に発行予定

投稿提出期限は8月31日、2月28日まで逐次受付

◇服飾文化学会作品集発行

2008年度は2009年1月末に発行予定

投稿提出期限は10月31日

2008年度第9回総会・大会の報告

服飾文化学会第9回総会・大会は、2008年5月17日(土)・18日(日)に、女子美術大学相模原キャンパスを会場として開催された。大学院・芸術学部生が学ぶ相模原キャンパスは、緑豊かな広々とした敷地内に低層建築の校舎が立ち並び、芸術・創作活動に集中するためには恵まれた環境といえる。しかし都心から距離があり、実行委員一同、多数の参加者が得られるかを心配していたが、両日ともに天候にも恵まれ、108名の参加者を得ることができた。2日間の概要を以下に報告する。

1) 口頭発表

伊藤会長の開会の挨拶に次いで、開催校より小倉文子芸術学部長の挨拶があり、口頭発表が開始された。発表件数は計9件で、本学会の幅広い教育・研究分野を示して、服飾・染織史、染織文化財の分析を通しての知見、被服心理学、繊維製品関連、美術史関連など多岐にわたり、研究者とし

ての真摯な姿勢がうかがわれるものであった。異なる立場の研究者が意見を交え、活気に満ちた有意義な発表会となった。



伊藤会長、開会の挨拶



口頭発表会場

2) 作品・ポスター展示発表

ポスター発表2件を含む発表は10件であった。会場では、各発表者のショートスピーチ後に活発な質疑応答が行われた。作品は、素材・デザイン・技術等の視点に立って制作され、ポスター発表においても資料作品が展示された。オリジナリティー溢れる実証的研究に、さらなる展開を期待できる発表であった。



作品・ポスター展示発表会場

3) 特別講演

初日の口頭発表後に、二つの講演が行われた。
講師：近江源太郎氏（女子美術大学大学院教授）
演題：女性服装色50年の変遷

— 時系列測色調査データを読む —

氏が理事長をされている財団法人日本色彩研究所では、1955年以来、毎年四季ごとに東京銀座の來街女性からランダムサンプリングして、服装色を測定し続けている。これは世界的にみても長期にわたる上質な調査データであり、これらから確認された女性の服装色の時系列的な5つの構造的特徴について、図表を提示して明解に読み解かれた。統計の解析についても示唆に富んだご講演であった。



特別講演、近江源太郎氏

講師：福田喜重氏（重要無形文化財保持者・刺繍）
演題：日本刺繍の特質—絹のかがやき—

日本刺繍の歴史と特質および日本刺繍の心について丁寧に解説いただき、絹が育む日本の伝統文化について再認識させられたご講演であった。



特別講演、福田喜重氏

4) 総会

岡田宣世総会・大会実行委員長の開会の辞に始まった2008年度の総会は、伊藤紀之会長の挨拶に

続き、福山和子氏を議長に選出して議事に入った。

報告事項として、昨年度事業報告・同決算報告と監査報告があり、審議事項として、新たな計画である作品集発行を含む今年度事業計画案・同予算案が承認された。（今年度事業計画はp.2、予算・決算報告はp.8に記載）

5) 懇親会

発表会場階下の食堂を会場とし、70名の参加者に特別講演講師の近江源太郎氏、福田喜重氏を交えて開催。蔵方宏昌副会長の司会により、伊藤紀之会長の挨拶で開会、歓談と食事を楽しむ和やかな雰囲気の会となった。

6) 見学会

前日も入場自由となっていたが、2日目、13時からの見学会は、10号館、女子美アートミュージアムにて、大澤美樹子氏（女子美術大学工芸学科教授）の脇阪克二氏のデザイン活動についての紹介から始まった。次いで、脇阪氏より大会参加者へ向けて「北欧の夢 ニューヨークの洗練 日本の情緒 脇阪克二テキスタイルデザインの世界 女子美コレクションを中心に」展に因む特別レクチャーがあり、氏と共に各作品を鑑賞していった。

床も壁も白く天井から自然光が入る会場には、フィンランド、ニューヨーク、日本と、それぞれの地でデザインされた布や原画が鮮やかな色彩をみせて浮かびあがる。また、展示作品の中に、本学会会員塚田耕二氏のコレクションが含まれてい



見学会場にて、脇阪氏の解説

る旨、伊藤会長から紹介があった。当日の参加者は66名であった。

その後、希望者は芸術学部ファッション造形学科の工房見学を行い、全日程を終了した。

皆様の熱意とご支援によって、本大会・総会が盛会裏に終了したことに深謝申し上げます。

(総会・大会実行委員 澤村英子)

《2008年度 第9回総会・大会プログラム》

5月17日(土)

13:30 開会の挨拶 学会長 伊藤紀之

開催校挨拶 女子美術大学芸術学部長 小倉文子

13:35-15:20

【口頭発表】

◆座長 長田美智子(鎌倉女子大学)

A-1 若年女性の服飾に対する嗜好

ー数量化Ⅲ類による分析ー

高野倉睦子(神戸女子大学)

◆座長 佐藤 泰子(文化女子大学)

A-2 循環型の衣生活文化形成のための基盤研究(2)

ー古着・古布の近世以降の流通ー

玉田真紀(尚絅学院大学)

A-3 日本の型紙

ー染型紙の地域的特徴に関する分析的研究ー

鈴木さやか

◆座長 小笠原小枝(日本女子大学)

A-4 陣羽織の発生と展開ー材質と技法に基づく再検証ー

○深津裕子、齊藤昌子(共立女子大学)

A-5 不動明王の眷属(矜羯羅・制吒迦)像にみる童子の

髪型表現について

福地佳代子(東北福祉大学)

◆座長 長崎 巖(共立女子大学)

A-6 戦後における和服への懐古の周辺

ー中原淳一・花森安治に注目してー

安城寿子(お茶の水女子大学大学院)

A-7 三輪山の伝説に見る苧環文様について

岡松 恵(奈良女子大学大学院)

15:30-17:10

【特別講演】

演題1 近江源太郎氏(女子美術大学大学院教授)

女性服装色50年の変遷

ー時系列測色調査データを読むー

演題2 福田喜重氏(重要無形文化財保持者 刺繍)

日本刺繍の特質ー絹のかがやきー

17:20-17:50

【総会】

18:00-19:30

【懇親会】

会場: 2号館食堂

5月18日(日)

9:30-10:05

【口頭発表】

◆座長 清水久美子(同志社女子大学)

B-1 大正期のきものに関する一考察

ー『婦人画報』と『主婦の友』に見られるきものの比較分析を通してー

石黒恵美(昭和学院短期大学)

◆座長 岡田宣世(女子美術大学)

B-2 ファブリックワークにおける基礎的研究

ーニードルパンチングについてー

牟田 緑(東京田中短期大学)

10:20-11:30

【作品・ポスター展示発表】

◆座長 佐久間恭子(女子美術大学)

C-1 織物作品の抜染法による柄の検討

ータペストリー制作ー

池田節子(相模女子大学短期大学部)

C-2 シルクペーパーとニットのコラボレーション

〈泥で染めたシルクペーパーを用いて〉

多田洋子(和洋女子大学)

◆座長 大網美代子(大妻女子大学)

C-3 One-piece “偶然から導く必然”

豊田桜子(女子美術大学)

C-4 ワンピースドレス2題(スラッシュキルトを用いて)

○角田千枝、田中百子(相模女子大学短期大学部)

◆座長 池田節子(相模女子大学)

C-5 伝統柄からのデザイン第2報 銘仙2 大十字

内藤千文(大阪女子短期大学)

C-6 「モラ」手法を用いたテキスタイルの創作

松本幸子(東京家政学院大学)

◆座長 田中美智(川村学園女子大学)

C-7 構築的テクニックで表現するジャケット

梶間充子(園田学園女子大学短期大学部)

C-8 服飾デザインにおける浜ちりめんの適応性

ー幾何学柄の効果性ー

森下あおい(滋賀県立大学)

◆座長 伊藤紀之(共立女子大学)

C-9 中国南京における欧風刺繍指導の試み

内田桃子(女子美術大学短期大学部)

C-10 女子美術学校における刺繍教育

ー刺繍研究室資料を中心にー

○大崎綾子、岡崎和美(女子美術大学短期大学部)

13:00-15:00

【見学会】

●女子美アートミュージアム 展覧会

解説: 脇阪克二氏、大澤美樹子氏

「北欧の夢 ニューヨークの洗練 日本の情緒

脇阪克二テキスタイルデザインの世界

ー女子美コレクションを中心にー

●ファッション造形学科 工房見学

「源氏物語」千年紀に際して

山名 邦和

本年（平成20年）は、源氏物語千年紀とされているが、源氏物語54帖の成立を、平安中期、11世紀のはじめごろとすることには、異論の余地はない。構成の妙、自然・心理描写における作者・紫式部の筆述のみごとさなど、日本はおろか、世界の文学史上それはまれにみる名著として、今日でもなお人びとの心を魅了してやまない。Tシャツにジーンズといった姿の女子学生たちが、憧憬をひめて、それが講ぜられるゼミの授業に出席するのを、心待ちにしている様子には、思わず一種の感動を禁じ得ない。他方、源氏物語誕生の背景に思いをいたせば、王朝の貴族たちが一様に畏怖してやまなかった、いわゆる怨霊のたたなりへの恐怖心は、当時の貴族の第一人者、藤原道長といえども、その例外たり得ず、道長時代の藤原氏にとって、最有力対抗馬に相当した源氏の家系に連なり、道長によってまっ殺されたものたちの、怨霊鎮魂というかれの幽念が、光源氏を名とする主人公をもったこの物語の形成に、大きく貢献したことはまず間違いない。道長の鎮魂へのあつい思いこそが、この不世出なる名作を世に^だ出したといっても過言ではないだろう。

ところで、源氏物語が著述された平安中期ころ以降、中世にかけて、貴族貴顕の女性たちの礼装は、俗に十二単（女房装束）と呼ばれる。周知のとおり、それはひとえ単と称する肌着の上に桂（五衣）・打衣・表着・唐衣と順に重ね、さらに袴と裳を装う。現代から見れば大仰な重ね着姿ともいえる。冬季には小袖を単の内側に用いた。今、このうちの《打衣》を組上に載せたい。打衣はその形状において単や桂と、ほとんど変るところはないが、^{きぬた}砧で打って特に光沢を出した（江戸時代は板引で）。それが《表着》のすぐ下に著装されたという点に、用途上の特色を指し示していて、十二単が礼装にふさわしい見ばえや張り（大きさ）をもつ形象・体裁を表出するための、当時として

は、それは絶対に不可欠な着衣であった。すなわち、平安朝前半期の《なえ装束》から、摂関政治を支えとした、後半期のいわゆる平安王朝文化の艶麗な《強装束》へと、ファッションの大転換の状況を象徴する貴重な着衣なのである。蛇足ながら、15、6世紀以後の西欧貴族女性の礼装でも、上着の内側に打衣と役割を同じくする衣装一例えば、ステイズとファーシングールを用いて、プロポーションを整えるように構成されている。今日のプロポーションの感覚とは異質な、上着と下着との中間の位置で、礼装らしい美観を構築しようとしている。こうした心遣は相互（日本と西欧）に共通していて、衣服造形感覚の世界性の一端を顕示した一例といっていよう。

本筋にもどって、打衣は後世《略される》こととなるが（江戸末復活）、この衣の省略こそは明らかに強装束の放棄を意味し、平安王朝文化の終焉をファッションの面から教示するきわめて重要な、現象の一つであるにもかかわらず、その省略（放棄）の明確な時期は、今もって不詳といわざるを得ない。源氏物語千年紀の到来は、その解答をせまる督促だ！、と手前勝手に思っている。

文末に至り真に恐縮だが、この機会にぜひ紹介したい人物がある。今井友子氏（滋賀県在住）である。地元放送局のアナウンサーをされていたが、源氏物語の古語の美しさにうたれ、各種邦楽器（例・能管）などと合わせて源氏の文章を流暢な口調で語り、また、そうした会をも主宰されている。例えば、本年は4月4日に滋賀県の教林坊で若菜の巻を語る会の開催をかわ切りに、いくつかの語りの会が予定されている。世界文学史上の花、源氏物語を、一人でも多くの人びとと楽しもう、とする氏の心意気にエールをおしまない一人であることを付記したい。

会報編集担当より；

今号では京都から原稿を頂戴いたしました。ぜひ、各地の話題や情報をお寄せください。

2008年度第9回夏期セミナーの報告

本年度のセミナーは、非会員1名を含む合計22名の参加を得て、平成20年8月5日(火)～7日(木)の3日間、「アイヌ民族の文化と服飾」をテーマとして北海道で実施された。

1日目はアイヌの服飾文化に関する基調講演(札幌厚生年金会館)、2日目は前日の講演内容の実物に触れながらの講演と見学(札幌市、白老町)、3日目は開拓時の土族の服飾を加えた講演と見学(伊達市)という研修内容であった。

[基調講演]

1. 「アイヌ民族の服飾史」(津田命子氏)

道立アイヌ総合センター学芸員の津田氏から、アイヌの衣裳についての講演があった。アイヌ衣服の種類には毛皮類、アットゥシ、木綿衣類があり、その中の「アットゥシ(靱皮衣)」は、オヒョウなどの樹皮繊維から作られ、衣服に直接或いは置き布を介して一筆描き調の刺しゅうをすることによって独特の模様が構成されるなどの特徴を画像でわかりやすく解説していただいた。

2. 「アットゥシの生産と流通」(本田優子氏)

札幌大学教授本田氏から、アットゥシが晴れ着、労働衣を含めた日常衣として、開拓使時代におけるアイヌの中心的衣服であったとともに、アイヌ民族の起源や神話とも結びつくものであったこと、また、1万反もの、かなりの量のアットゥシが生産され流通していたことなどを、豊富な記録資料をもとに解説していただいた。

[訪問先]

1. 北海道開拓記念館

同館主任学芸員出利葉浩司氏から、特別に収蔵庫から蔵出ししていただいた同館所蔵の「アイヌ民族の伝統的的衣服」を前にして解説いただき、実際に手を触れながら見学することができた。

その後同館を見学したが、同館は北海道百年を記念して開設された道立の総合歴史博物館で、石器時代～アイヌの暮らし～開拓時代から現状と未

来の北海道までの文物が、8年代テーマ別に展示されており、非常に見ごたえのある内容であった。

2. アイヌ民族博物館

同館の野外施設として、ポロト湖畔に「しらおいポロトコタン」があり、園内のアイヌの茅葺きの家チセのなかで、同館学芸課長村木美幸氏から、アットゥシ織りの実演を前にしてアットゥシについて詳細に解説していただいた。原料となるオヒョウの樹皮繊維サンプルも頂戴した。また、同博物館には、アイヌの衣裳をはじめ、祖先が残した貴重な文化的文物の展示があった。



「しらおいポロトコタン」像前



アイヌ民族博物館、アットゥシ織実演と解説

3. 伊達市噴火湾文化研究所

同所所長大島直行氏から「アイヌ民族の起源」と題して、日本の文化の基礎を築いた縄文人の正しい末裔がアイヌ人であること、同所学芸員青野友哉氏の「アイヌ民族の副葬品と他界観」からは死後の世界の幸せを願った副葬品の多彩さ、同所学芸員黒田格男氏の「伊達家支藩移住時服飾資料について」などの3氏の講演後、黒田氏のご案内により同所を見学した。小袖、夜着など同所収蔵の開拓記念の土族の服飾資料を特別に手にとって展示見学させていただいた。資料の保存・展示法



洞爺湖畔にて

などで同所にアドバイスをなさっている福山先生からも、種々解説いただいた

なお、青野氏には後の北黄金貝塚に同行・解説いただき、黒田氏には本日の全ての見学先を、札幌までご案内いただいた。



伊達市噴火湾文化研究所
福山先生より所蔵品解説

4. 「だて歴史の杜」記念公園

明治3年から仙台伊達支藩巨理伊達家が開拓移住したことが伊達市の名前の由来と聞く。園内の大手門ではるかなる青葉城を偲び、黎明館で昼食、伊達市開拓記念館を見学、同館迎賓館前で開拓期の要人達の会談に思いを馳せた。伊達市開拓記念館には、移住時に持ち込まれた生活用品などの武家文化財や開拓に関する資料などの展示があり、なかでも、大型の雛人形セットが目を引いた。

5. 縄文の丘 北黄金貝塚

一帯は眺めの良い「史跡北黄金貝塚公園」になっており、貝塚、出土した石の道具、住居群、墓、水場の祭祀場などを見学しながらいにしえの縄文文化をしのんだ。

【その他】

セミナー中は気温こそ30度前後とやや高かったが、からっとした好天に恵まれた。講演と見学先の多彩さとわかりやすさ、懇親会での美味しい地元食材やお酒の味わい、G8サミットの地洞爺湖畔でのしばしの散策による気分転換、なども参加者の満足につながったと考える。

最後に、バスの手配・運営、見学先の調整・解説・同行など多大のご協力をいただいた伊達市、すばらしいセミナーの企画・実施にお骨折りいただいた福山先生に深謝致します。

(夏期セミナー担当 伊藤一郎)

スケジュール

8月5日(火)

- 13:30 受付 北海道厚生年金会館
- 14:10 開会、基調講演
- 18:00 懇親会

8月6日(水)

- 8:30 厚生年金会館発(貸し切り観光バス)
- 9:30 北海道開拓記念館訪問(見学と講演)
- 11:30 昼食(アサヒビール園 ピルゼン)
- 14:30 アイヌ民族博物館訪問(見学と講演)
- 17:35 洞爺湖畔(散策約1時間)
- 19:15 ホテルサンルート室蘭着

8月7日(木)

- 8:30 ホテル発(伊達市の観光バス)
- 9:00 伊達市噴火湾文化研究所訪問(見学と講演)
- 12:00 昼食(だて歴史の杜 黎明館)
- 13:00 伊達市開拓記念館訪問(見学と講演)
- 14:00 北黄金貝塚見学
- 16:10 新千歳空港(解散) バスは札幌まで

会計報告

①服飾文化学会 2007(平成19)年度収支決算書 (07.4.1～08.3.31)

収 入	予 算	決 算	増 減	備 考
(1)年 会 費	960,000	1,341,000	381,000	(単位：円) ¥6,000×208件 ¥3,000× 31件 ¥1,000× 15件 ¥ 500× 4件
(2)入 会 金	15,000	17,000	2,000	
(3)年間購読料	30,000	63,000	33,000	
(4)学会誌掲載料	600,000	1,070,400	470,400	¥3,000×13件 (審査料含む) 学会誌販売 ¥13,000 寄付¥2,000 利子¥1,259
その他	0	16,259	16,259	
前年度繰越金	-182,178	-182,178		
合 計	1,422,822	2,325,481	902,659	
支 出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
2)学会誌発行費	500,000	580,960	-80,960	
3)通 信 費	90,000	65,255	24,745	
4)会報発行費	180,000	210,868	-30,868	会報No.13～15
5)事務用品費	60,000	59,218	782	
6)会 議 費	50,000	17,200	32,800	
7)交 通 費	20,000	2,000	18,000	
8)雑 費	10,000	1,640	8,360	
(2)事業費				
1)事業費A	30,000	0	30,000	研究例会
2)事業費B	100,000	100,000	0	論文発表会
(3)広報費	20,000	0	20,000	
(4)予備費	262,822	38,904	223,918	選挙管理委員会
小 計	1,422,822	1,176,045	246,777	
(5)次年度繰越金		1,149,436		
合 計	1,422,822	2,325,481		

※総会時の資料に一部数字の誤りがありましたので、事務局にて訂正いたしました。

②特別会計収支報告 (07.4.1～08.3.31)

	収 入	支 出	現在高
前年度繰越金			938,375
○大会余剰金	4,059		
○夏期セミナー余剰金	273,947		
○ホームページ作成費		88,761	1,127,620

③服飾文化学会 2008(平成20)年度収支予算 (08.4.1～09.3.31)

収 入	予 算	前年度	増 減	備 考
(1)年 会 費	1,134,000	960,000		(単位：円)
(2)入 会 金	15,000	15,000		
(3)年間購読料	30,000	30,000		
(4)学会誌掲載料	500,000	600,000		
(5)作品集掲載料	300,000			
その他	0	0		
繰越金	1,149,436	-182,178		
合 計	3,128,436	1,422,822		
支 出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
2)学会誌発行費	600,000	500,000	100,000	
3)作品集発行費	400,000		400,000	新規項目
4)通 信 費	90,000	90,000	0	
5)会報発行費	140,000	180,000	-40,000	
6)事務用品費	70,000	60,000	10,000	
7)会 議 費	50,000	50,000	0	
8)交 通 費	20,000	20,000	0	
9)雑 費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	50,000	30,000	20,000	研究例会
2)事業費B	100,000	100,000	0	論文発表会
(3)広報費	20,000	20,000	0	
小 計	1,650,000	1,160,000		
(4)予備費	1,478,436	262,822		
合 計	3,128,436	1,422,822		

入会者 (2008年 4 月～) ※敬称略・五十音順

正会員

芦 澤 ゆう子	鎌倉女子大学
内 田 桃 子	女子美術大学短期大学部
川 口 えり子	日本女子大学
菅 野 ももこ	東京家政大学
高 木 結 美	東京都
福 地 佳代子	東北福祉大学
三 木 幹 子	広島女学院大学
水 上 嘉代子	遠山記念館
渡 邊 恵	福岡県

学生会員

市 嶋 鮎 子	共立女子大学大学院
格 根 図 亜	神戸大学大学院
許 斐 亮 子	共立女子大学大学院
田 中 淑 江	日本女子大学大学院
西 井 智 美	共立女子大学大学院

退会者

退会者

鈴 木 理恵子	平成19年度末
渡 辺 澄 子	平成19年度末
飯 岡 絹 子	平成20年 7 月 1 日付

お詫びと訂正

No.15にて、正会員鷹司綸子先生を退会者として掲載いたしましたが、誤りでした。ここに訂正し、謹んでお詫びを申し上げます。

会 報 No.16：2008(平成20)年 9 月発行

編集発行人：服 飾 文 化 学 会

事務局：101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1

共立女子大学 被服意匠研究室

TEL,FAX;03-3237-2496

E-mail;isho@s1.kyoritsu-wu.ac.jp

URL;http://www.fukushoku-bunka-gakkai.jp